

科目名	基礎漢方薬学		
英語名	Fundamentals of Kampo Pharmaceutical Sciences		
開講期	前期（春学期） 金/4	選必区分	大阪医科薬科大学薬学部(必修)・ 関西大学（選択）
単 位	大阪医科薬科大学薬学部 1.5・関西大学 1.5		
代表教員氏名	芝野 真喜雄		
代表教員以外の担当者			
授業の目的と概要			
<p>漢方医学は、古代中国医学を基盤に、多くの臨床経験を積み重ね、独自に発展してきた日本の伝統医学である。また、その信頼性の高さから、医療用医薬品として148処方の漢方製剤が薬価収載されている。特に、近年では、漢方薬の重要性が増し、90%以上の医師が漢方薬の処方経験を持つ。すなわち、薬剤師はより専門的な漢方薬の知識が不可欠になっている。この授業では、薬学の立場から漢方薬を構成している個々の生薬の薬能について理解を深めることにより、漢方製剤を適正に使用できるための基礎知識を習得する。</p>			
一般目標（GIO）			
<p>本授業では、漢方薬の適用症や副作用などを覚えるだけでなく、漢方薬を構成している生薬の作用や役割を理解することにより、「考え、応用できる漢方」の基礎知識を習得する。</p>			
授業の方法			
<p>教科書およびスライドを用いて対面の講義形式(ハイフレックス型授業)で行うことを基本とするが、一部はオンデマンドで講義を行うことがある。また、各回の講義後に、症例演習問題を行う。</p>			
アクティブ・ラーニングの取組			
<p>症例演習では、自ら考えた処方について発表を行う。(対面授業時は、発表者5～6人で毎回ランダムに指名する。)</p> <p>オンデマンド授業の場合は、症例課題に対する解答を考え提出する。</p> <p>また、現代医療における漢方薬の役割について、授業での症例課題も考慮した課題に対してレポートを作成する。詳細なテーマは講義の中で伝える。</p>			
成績評価			
<p>大阪医科薬科大学薬学部：定期試験結果（85%）、レポート（15%）により評価する。</p> <p>関西大学：最終レポート（85%）、中間レポート（15%）により評価する。</p>			
試験・課題に対するフィードバック方法			
<p>試験答案を開示し、再試験受験対象者には解説を行う。</p> <p>課題レポートは返却しないが、点数については開示する。</p>			
実務経験を有する専任教員名／実務経験を活かした実践的教育内容			
学位授与方針との関連			
<p>薬剤師として医療に関わるための基本的知識、特に漢方薬と漢方医学の知識を身につける。</p>			

SDG s 17 の目標との関連			
3.すべての人に健康と福祉を／12.つくる責任 つかう責任			
関連する科目			
関連科目	漢方医学概論、生薬学、薬用天然物化学、薬用植物学		
臨床系関連科目・内容	漢方医学概論 臨床現場で使用される漢方薬を適切に使用、服薬指導するために、漢方薬を構成している生薬の作用や役割について整理し、理解を深める科目である。		
教科書・参考書等（書名・著者・出版社）			
教科書	ミニマムファクター 漢方生薬学 芝野真喜雄 京都廣川書店		
参考書	図解漢方処方のトリセツ 川添和義 じほう エビデンス・ベース漢方薬活用ガイド 松原和夫、伊藤美千穂 京都廣川書店		
授業計画			
回数	項目	到達目標・授業内容・コアカリ番号	準備学習
1	漢方医学の基礎と考え方 1	漢方の歴史について概説できる。 【*】漢方と中医学の特徴について説明できる。【*】漢方の特徴について概説できる。【E2-(10)-①-1】陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証など、漢方の基本用語を説明できる。【E2-(10)-①-2】漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。【E2-(10)-①-4】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の剤形と特徴について説明できる。【*】	漢方医学独特の言葉や病態の捉え方があり、到達目標に挙げられている用語については、必ず、教科書の基礎理論編（1-15ページ）を一読しておくこと。また、基礎理論は、各論での漢方薬の理解に必要不可欠なため、疑問に感じたことは、オフィスアワーなどを利用して解決しておくこと。これらの予習、復習に3時間は必要である。
2	漢方医学の基礎と考え方 2	漢方の歴史について概説できる。 【*】漢方と中医学の特徴について説明できる。【*】漢方の特徴について概説できる。【E2-(10)-①-1】陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証など、漢方の基本用語を説明できる。【E2-(10)-①-2】漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。【E2-	漢方医学独特の言葉や病態の捉え方があり、到達目標に挙げられている用語については、必ず、教科書の基礎理論編（16-27ページ）を一読しておくこと。また、基礎理論は、各論での漢方薬の理解に必要不可欠なため、疑問に感じたことは、オフィスアワーなどを利用し

		<p>【(10)-①-4】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の剤形と特徴について説明できる。【*】</p>	<p>て解決しておくこと。これらの予習、復習に3時間は必要である。</p>
<p>3</p>	<p>かぜの治療に対する漢方の考え方：葛根湯、麻黄湯、麻黄附子細辛湯</p>	<p>日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方収載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【*】</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出てきた場合は、オフィスアワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらいが必要である。</p>
<p>4</p>	<p>水(津液)に関する生薬、漢方薬：五苓散、麦門冬湯など</p>	<p>日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方収載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、</p>

		<p>能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方法の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。</p> <p>【*】</p>	<p>疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらゐが必要である。</p>
<p>5</p>	<p>血に関する生薬、漢方薬：桂枝茯苓丸、当帰芍薬散など</p>	<p>日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方収載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方法の適応となる証、症状や疾</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらゐの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらゐが必要である。</p>

		患について例示して説明できる。 【*】	
6	気に関する生薬、漢方薬1：六君子湯、補中益気湯など	<p>日本薬局方記載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方記載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に記載されていない頻用漢方処方への適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。 【*】</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらいが必要である。</p>
7	気に関する生薬、漢方薬2：半夏厚朴湯、香蘇散など	<p>日本薬局方記載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方記載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法につ</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらいが必要である。</p>

		<p>いて概説できる。【E2-(10)-②-1】 日本薬局方に収載される漢方薬の適 応となる証、症状や疾患について例 示して説明できる。【E2-(10)-②-2】 現代医療における漢方薬の役割につ いて説明できる。【E2-(10)-②-3】 漢 方薬の副作用と使用上の注意点を例 示して説明できる。【E2-(10)-③-1】 日本薬局方に収載されていない頻用 漢方処方への適応となる証、症状や疾 患について例示して説明できる。 【*】</p>	
8	<p>熱に関する生薬、漢方薬1：八 味地黄丸、牛車腎気丸、大建中 湯など</p>	<p>日本薬局方収載の代表的な生薬を列 挙し、その基原、薬用部位を説明でき る。【C5-(1)-②-1】日本薬局方収載の 代表的な生薬の薬効、成分、用途など を説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用 や使用上の注意が必要な代表的な生 薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)- ③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬 能(古典的薬効)で説明できる。【*】 配合生薬の組み合わせによる漢方薬 の系統的な分類が説明できる。【E2- (10)-①-3】漢方医学における診断 法、体質や病態の捉え方、治療法につ いて概説できる。【E2-(10)-②-1】 日本薬局方に収載される漢方薬の適 応となる証、症状や疾患について例 示して説明できる。【E2-(10)-②-2】 現代医療における漢方薬の役割につ いて説明できる。【E2-(10)-②-3】 漢 方薬の副作用と使用上の注意点を例 示して説明できる。【E2-(10)-③-1】 日本薬局方に収載されていない頻用 漢方処方への適応となる証、症状や疾 患について例示して説明できる。 【*】</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙 げた漢方薬について教科書を 熟読し、あらかじめ、それらの 効能などを理解するために 1.5 時間ぐらいの予習が必要である。 また、学習した漢方薬につ いては、参考図書などを利用 し、理解を深めること。さらに、 疑問点などが出てきた場合は、 オフィス・アワーを積極的に利 用し、解決するように心がける こと。これらの復習に2時間ぐ らいが必要である。</p>
9	<p>熱に関する生薬、漢方薬2：黄 連解毒湯、温清飲など</p>	<p>日本薬局方収載の代表的な生薬を列 挙し、その基原、薬用部位を説明でき る。【C5-(1)-②-1】日本薬局方収載の</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙 げた漢方薬について教科書を 熟読し、あらかじめ、それらの</p>

		<p>代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。</p> <p>【*】</p>	<p>効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらいが必要である。</p>
<p>10</p>	<p>五臓：心、肝に関する漢方薬1 酸棗仁湯、甘麦大棗湯、抑肝散、釣藤散など</p>	<p>日本薬局方収載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方収載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割につ</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらいが必要である。</p>

		<p>いて説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に記載されていない頻用漢方処方への適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。</p> <p>【*】</p>	
<p>11</p>	<p>五臓：心、肝に関する漢方薬2 加味帰脾湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、柴胡加竜骨牡蛎湯など</p>	<p>日本薬局方記載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方記載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬能(古典的薬効)で説明できる。【*】配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に記載されていない頻用漢方処方への適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。</p> <p>【*】</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、疑問点などが出来た場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらいが必要である。</p>
<p>12</p>	<p>痛みに対する漢方薬 防己黄耆湯、疎経活血湯、附子剤など がん治療で使用される漢方薬 六君子湯、半夏瀉心湯、補中益気湯、人参養栄湯、大建中湯など</p>	<p>日本薬局方記載の代表的な生薬を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。【C5-(1)-②-1】日本薬局方記載の代表的な生薬の薬効、成分、用途などを説明できる。【C5-(1)-③-1】副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。【C5-(1)-③-2】漢方薬の薬効を構成生薬の薬</p>	<p>「授業計画」の各回の項目に挙げた漢方薬について教科書を熟読し、あらかじめ、それらの効能などを理解するために1.5時間ぐらいの予習が必要である。また、学習した漢方薬については、参考図書などを利用し、理解を深めること。さらに、</p>

		<p>能（古典的薬効）で説明できる。【*】 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。【E2-(10)-①-3】漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。【E2-(10)-②-1】日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。【E2-(10)-②-2】現代医療における漢方薬の役割について説明できる。【E2-(10)-②-3】漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。【E2-(10)-③-1】日本薬局方に収載されていない頻用漢方処方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。</p> <p>【*】</p>	<p>疑問点などが出てきた場合は、オフィス・アワーを積極的に利用し、解決するように心がけること。これらの復習に2時間ぐらひが必要である。</p>
--	--	---	--